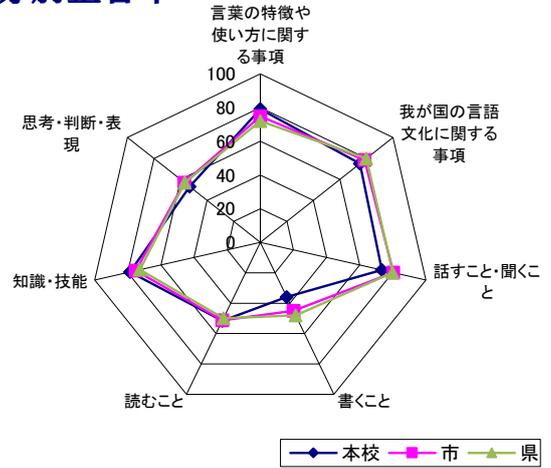


# 宇都宮市立桜小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	79.1	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	75.0	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	73.4	80.4	80.0
	書くこと	35.9	45.1	48.0
	読むこと	51.6	51.3	50.0
観点	知識・技能	78.7	75.2	72.8
	思考・判断・表現	53.1	57.0	57.0



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、市の平均より高い。 ○第4学年で学習した漢字の読み書きや熟語の組み合わせの正答率が県・市よりも高い。繰り返し漢字や熟語の学習に取り組んでいる成果と考えられる。	・今後も引き続き漢字の学習に繰り返し取り組み、定着を図っていく。 ・熟語について、漢字の組み合わせを理解させることで意味を捉え、自分の表現に用いることができるよう指導していく。
情報の扱いに関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●慣用句の意味を捉えることに課題が見られる。	・慣用句に触れる学習を意図的に取り入れたり、教室に本を置いたりして、日本の言語文化に触れる機会を増やしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉えたり、司会者の立場で出された意見を簡潔にまとめたりすることに課題が見られる。	・自分の意見をもって話合いに臨むことはできているので、話合い活動を通して、話し手が伝えたいことに気を付けながら話の中心を捉えたり、誰もが司会者を担当して話合いで出た意見を簡潔にまとめる活動を経験していくことで、話すこと・聞くことの手を高められるよう指導していく。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書くことに特に課題が見られた。注意する点として4つの条件が挙げられており、条件の意味を理解し、全ての条件を満たして書くことが難しかったと考えられる。また、無回答率も25%と高く、書くことへの苦手意識が感じられる。	・授業の中で自分の考えを書く活動を増やしていく。 ・条件を設定し、条件に沿った文を書く学習を増やしていく。 ・読み取った内容について自分の考えをまとめる際には、情報の整理の仕方や自分の考えのまとめ方、文章の組み立て方などを具体的に示し、進んで書く活動に取り組めるように指導していく。
読むこと	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○物語の登場人物の性格について、具体的に想像する問の正答率は、市平均より高い。授業の中で登場人物に着目して丁寧に読み取りを行っている成果であると考えられる。 ●説明文を読み取る問題では、文章を読んで感じたことや分かったことを共有する問題の正答率が低い。	・文章を読み取る際には、キーワードとなる言葉や登場人物の心情の変化に着目させたり、段落やまとまり、場面の移り変わりなどに注意したりしながら読み取るよう指導していく。 ・読書の時間を確保し、幅広い分野の本に触れる機会を増やしていく。